

## 平成23年度第2回地域公共交通会議 会議録要旨

■日 時：平成23年6月17日（金）午後1時30分～  
■場 所：北見市議会 第2委員会室  
■出席者：協議会一塚本会長、高橋副会長、山村委員、東雲委員、広川委員、  
山内委員、多田委員、松浦委員、戸田委員、森委員、  
山口委員代理（後藤氏）、大谷委員、渡辺（正）委員、宮腰委員、  
渡部（眞）委員、井南委員、藤澤委員代理（梅田氏）、  
小原委員  
事務局：浅野目地域振興室長、橋本地域交通対策担当主幹、  
水野地域交通担当係長

### 開会

#### ●浅野目室長

本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

ただ今から平成23年度第2回北見市地域公共交通会議を開催させていただきます。  
開催にあたりまして、塚本会長からご挨拶をいただきたいと思ひます。

#### ●塚本会長

皆様、こんにちは。

この地域公共交通会議も2回目を数えることになりました。今日は、久しぶりにいい  
天気で、オホーツクブルーと言いましょうか、本当に、それが実感できるような日でご  
ざいます。

市の方もクールビズをしておりますことから、市の関係者は全てこのような軽装で対  
応していることを、まず、ご了解を賜りたいと思ひます。

国においても1ヶ月ずつ延びているという状況がございますが、今年は5月と10月  
まで1ヶ月ずつ延長しながら、東日本大震災の影響を勘案し、電力不足に何とか寄与し  
ようということでもあります。

ただ、このオホーツク地域にあって、本当に必要なのかなという部分はあろうかとは  
思ひますが、そこはどうかご了解を賜りながら、北見地域からも大震災に対する側面か  
らのバックアップという考え方でございますので、是非ともそこはご了解を賜りたいと  
思ひます。1日も早い、東日本大震災の復興をご祈念申し上げたいと思ひます。

また、この公共交通会議も今回で2回目を数えまして、関係機関の皆様、そして諸団  
体の皆様方には、この北見市内を走る交通をどうしようかという考え方の基に、ご尽力  
を賜っております。今日このパンフレットを皆様のお手元に配布し、山村委員にお越  
しいただいておりますが、北見バスさんのご協力を賜りまして、こういうバス路線がい  
よいよ7月1日からスタートするというところでございます。

この事業は、実は先の会議におきまして、「今年は国の補助事業には当たらない」と  
いう考え方を示しておりましたが、その後、運輸局とも色々お話を申し上げたところ、  
何とか対象になるかもしれないという話もございましたので、そういう部分をご協議申  
し上げる内容になっております。

いずれにいたしましても、こういうバス路線が新たに出来上がりまして、北見市民にとりましても「乗りやすい、行きやすい」そして北見市内をあちこち探索していただけるような場面になっていければ、「この公共交通会議の役割も果たして行けるのかな」と思っているところでございますので、どうか皆様の方からも様々なご意見を賜ればと思っているところでございます。

また、その他として、本日のレジュメにもありますように、この公共交通計画策定のプロポーザル結果について、高橋副会長よりお纏めをいただき、その報告もいただけるということになっております。

一つ一つを積み重ねながら、北見市内の交通のあり方につきまして、積み上げて参りたいと思っておりますので、どうか皆様方にご意見いただければと思っております。

冒頭、会長として第2回北見市地域公共交通会議に先立ちまして、お話を申し上げます。どうぞよろしくお願いを申し上げます。ありがとうございます。

●浅野目室長

ありがとうございました。それでは、これからの進めにつきましては塚本会長にお願いをしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

●塚本会長

会長がこの場を仕切ることになってございますので、私の方から議事を進めさせていただきたいと思っております。その前に、この会議の成立について、事務局の方から報告をお願いいたします。

●橋本主幹

皆様、大変ご苦労様でございます。

本日の出席人数は21名中18名であります。北見市地域公共交通会議設置要綱第6条第2項の規定に基づき、半数以上の出席がありますので、本日の会議は成立いたしますことをご報告申し上げます。

尚、佐藤忠義委員、佐藤浩一委員、鈴木委員は所要により欠席される旨、ご連絡をいただいておりますことをご報告申し上げます。

また、本日、山口委員の代理をいたします北見運輸支局の後藤専門官、藤澤委員の代理としまして、市の保健福祉課の梅田課長に出席をいただいていることを併せてご報告申し上げます。以上です。

報告事項1：市内バス路線「夕陽ヶ丘線」の本格運行について

●塚本会長

ありがとうございました。それではレジュメに従いまして、この会議を進めて参りたいと思っております。

レジュメ4番目の報告事項「(1)市内バス路線夕陽ヶ丘線の本格運行について」ということでございます。別紙資料をご覧いただきたいと思っておりますが、前回から若干変更点があると伺っておりますので、山村委員の方からご報告いただきたいと思っております。お願

いたします。

●山村委員

北海道北見バスの山村でございます。よろしくお願いいたします。

7月1日から本格運行となります新路線ですが、その最終決定ができましたので、運行計画をご報告申し上げたいと思います。お手元に私どもが作りましたチラシを用意させていただきましたので、こちらを参考にいただければと思います。

まず、新路線の系統名ですが、「北見市内線、系統番号8番、夕陽ヶ丘線」となります。前回4月の会議で計画の概要を発表させていただきましたが、その後、運行経路の一部につきまして変更をいたしました。

運行経路の近くに位置します日赤看護大学の生徒さんの利便性を考慮いたしまして、日赤看護大学の校舎前と言いますか、玄関前と言いますか、こちらまで乗り入れをするということにいたしました。この結果、当初予定しておりました系統距離が、往復で2回入ることになりますので、1.1キロ延びることになります。従いまして、この夕陽ヶ丘線の循環系等距離の総距離が21.2キロということになります。

続きまして運行時刻でございますが、運行時刻につきましては、このチラシの裏面に掲載をさせていただいております。ご覧いただけますと、1番最初に始発が小泉8号の7時05分、最終は小泉8号の18時20分で循環をいたしまして、小泉8号到着が19時25分の計14回の運行といたします。

時刻につきましては、こういった形で7月1日から運行いたしますが、私どもの会社につきましては年2回の時刻改正を行っております。従いまして、今後の改定予定は12月1日で、冬に向けてのダイヤ改正での時刻改正が見込まれております。運行を行いまして、特に何もなければそのまま運行になりますが、途中見直しが必要ということになれば、その変更が行われるということになります。私からは以上でございます。

●塚本会長

ありがとうございます。この件に関しまして皆様方からご意見いただきたいと思いますが、何かございますか。

●多田委員

時刻表の太字は乗降者数の多いバス停なのでしょうか。

●山村委員

はい、そうです。私どもは試験運行を3ヶ月ほどさせていただきました。その中のデータを基に、利用者の乗降の多い停留所について太くさせていただきました。

●塚本会長

皆さん、このバスに乗ったことはありますか。私はまだ乗れてなく申し訳ないのですが、どうですか。

●多田委員

乗ったことがあります、便利です。

●塚本会長

そうですか。人は沢山乗っていますか。

●多田委員

私が乗ったときは7～8人ぐらいです。

●塚本会長

時間帯はどのぐらいですか。

●多田委員

色々乗ってみましたが、意外だったのは、青葉町の児童相談所の辺りの利用が多いと感じました。

●塚本会長

児童相談所辺りで乗られるのは何故なのでしょう。大学生ではないのですよね。

いずれにいたしましても、こういう路線がいよいよスタートしますので、是非、皆様方に乘っていただいて、今後も色々のご意見をいただきまして、更に充実した路線を生むべく、またバス会社さんにもご協力いただきたいと思います。

これについてよろしいですか。

●全委員

はい。

●塚本会長

ありがとうございました。

報告事項2：北見市地域公共交通計画策定プロポーザル結果について

●塚本会長

それでは続きまして、(2)の北見市地域公共交通計画策定プロポーザルの結果についてです。資料1に基づきまして高橋副会長よりご報告いただきたいと思います。

●高橋副会長

北見市地域公共交通計画策定プロポーザルということで、私の方から報告させていただきます。

前回の交通会議におきまして、多田委員、宮腰委員、渡辺委員、井南委員、更に私ということで5名が選出されまして、5月10日に第1回目の策定委員会を開催いたしました。委員長は私になりまして、実施要領、更には日程との確認を行いました。

その確認いたしました実施要領、日程等を市のホームページ、更には報道機関により策定業者の公募を行いまして、4社からの参加表明及び企画提案書がありました。

お手元の資料の1をご覧ください。これが北見市地域公共交通策定プロポーザルの審査結果ということでございます。

6月14日に、第2回の策定委員会を開催しまして、業者からヒアリングを行いました。先ほどお話ししました5名の委員で採点をさせていただいて、このように決定させていただいたということでございます。ここにありますように最終的な結果といたしましては、4番にありますとおり一番合計点が多かった社団法人の北海道開発技術センターを特定し、選定したところでございます。理由も、選定理由の5番に書いてございますが、4社とも北見市の状況を十分理解していただきまして、事前調査も行われていたということを確認いたしました。その中でも特に北海道開発技術センターにつきましては、具体的な施策の検討がキッチリ行われていたということ、更に提案していただいた案がかなり実現性の高いということを確認いたしました。ヒアリングにおいても、かなり意欲的な取り組みということを感じられましたものですから、提案内容の企画性も含めて最終的には、北海道開発技術センターということに決定したということでございます。

尚、申し遅れましたが、当日、井南委員が他の用務のため欠席となりましたことから、支援する母体が同じでございます北見市の藤澤委員が代理をされたということで、併せてご報告いたします。

以上でございます。

#### ●塚本会長

ありがとうございました。このプロポーザルの審査結果、社団法人北海道開発技術センターさんをお願いをするという形でございます。これについてもよろしいですね。そういうことで決まったということでございますので、どうぞよろしくをお願いをしたいと思います。

### 協議事項：地域公共交通確保維持改善事業について

#### ●塚本会長

続きまして、5の協議事項「(1)地域公共交通確保維持改善事業」についてということで、資料2により事務局の方から説明いただきたいと思います。

#### ●橋本主幹

お手元の資料2をご覧くださいと思います。

地域公共交通確保維持改善事業につきまして、前回の交通会議で「来年度以降で活用できるよう進めてまいりたい」と説明させていただきましたが、その後、北海道運輸局・北見支局と協議した中で、夕陽ヶ丘線につきまして、本年度からの活用の可能性がでてきたことから、申請をするには交通会議での協議・承認が必要となり、今回お集まりいただいたところであります。

資料2の1ページをご覧くださいと思います。

前回の交通会議で山口委員の方からこの経緯についてはご説明があったところですが、その中の国の新しい補助制度の「補助対象とする地域内フィーダー系統の要件」であります。

当初、北海道運輸局・北見支局と検討していた中では、新しいバス路線「夕陽ヶ丘線」は対象から外れるのではないかとされておりましたが、詳しくバス路線を説明し、精査しましたところ、赤字で示させていただきましたが、具体的な要件の2の(1)、補助対象地域間幹線バス系統のフィーダー系統に該当する可能性が高いということとなりました。

これは、地域間幹線であります、今現在走っております美幌・津別線と温根湯線と接しておりますことから、そのフィーダー系統であるのではないかとされたからであります。

次に、2ページ目をご覧くださいと思います。

これは、「夕陽ヶ丘線」が、新しい国庫補助金を活用した場合と従来からある道補助金を活用した場合、どちらが市にとってよいか比較したものであります。

簡単に申しますと、新しい国庫補助金を活用した際は、運行したバスの赤字分を国が1/2、市が1/2となります。

従来の道補助金を活用した場合は、赤字分を道が1/3、市が2/3を補助することになりますので、「夕陽ヶ丘線については、新しい国庫補助制度の地域公共交通確保維持改善事業費補助金の対象路線として、本年度より活用した方が良い」と判断したところでございます。

次に2ページ下段の今後のスケジュールですが、国へ提出するための生活交通ネットワーク計画を作成いたしますが、7月～9月分までが平成23年度分、10月から来年9月までを平成24年度分として、6月末までに提出しなければなりません。

国はその計画を審査し、結果については9月末ごろ通知があるとのことでございます。その後、北海道北見バス(株)から補助金交付申請書を11月末に提出して、来年2月に国から補助金が交付される流れとなっております。

以上のことから、新バス路線「夕陽ヶ丘線」が、今後、持続可能なバス路線として運行していけるよう地域にとって有利な補助金を活用するために、本年度から地域公共交通確保維持費補助金を活用することとしまして、スケジュールのとおり実施してまいりたいと考えておりますのでよろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。以上でございます。

#### ●塚本会長

今、事務局の方から、この夕陽ヶ丘線に関わります国の補助事業に対して手を挙げていくという考え方でございます。実は、第1回目の時もお話申し上げたと思うのですが、今後、この公共交通路線に対しまして、国の補助等をいただく場合に、それに「合致する、させる、させない」ということよりも、この交通会議の中での了解を得て、申請をしているという1つのハードルが示されております。そういう意味でこの会議の中で、この夕陽ヶ丘線をその事業に乗せて申請をしていくという作業がありまして、今日、この会議にかけさせていただいたというところでございます。

尚、今事務局からお話がありましたように、第1回目の会議の時には、今年度、これは対象にならないだろうという風に踏んでいたのですが、事務局の方で運輸局・陸運支局との方たちと色々お話をさせていただき、今、申しあげました「幹線と幹線から発生するラインになりますよ」となりました。すなわち「美幌・津別線の間と北見・温根湯線の間から出て行くフィーダー系という枝線の役割を果たすラインになります」ということから、今回、陸運支局の方の力をいただきながら、「その対象になりそうだ」ということから、この作業を進めていきたいと思っています。

そうすることによって、国の補助金をいただけるようになりますから、我々としても赤字も補填していただけるということでございますので、「更に、長い時間この路線が市民にお使いいただけるような路線になっていくという、メリットが非常に多いのではないか」ということでご提案申し上げてございますので、そこは是非ご了解いただきたいと思います。

そういうことで、ちょっと私の方でも説明させていただきましたが、こういうことで申請していくということによろしいですか。

●全委員

はい。

●塚本会長

ありがとうございます。それでは協議事項はそういう形で進めさせていただきます。ネットワーク計画は事務局の方で作成していくということによろしいですね。

●橋本主幹

はい。

その他：次回の開催について

●塚本会長

6番目その他、次回の開催日程について事務局お願いします。

●橋本主幹

すべての協議事項に対しましてご承認いただきまして、ありがとうございます。

次回、第3回目のこの交通会議であります。前回お示ししましたとおり、交通計画策定に係る各調査等がまとまった時点で、前回の会からプロポーザルの関係ですれ込んでおまして、2～3週間遅れるかもしれませんが、おおよそ8月下旬から9月の頭くらいに委託事業者、先ほどもありました北海道開発技術センターさんから調査の報告をいただくこととなりますので、ご了解いただきたいと思います。以上でございます。

●塚本会長

ありがとうございます。8月下旬ということでございますので、万障繰り合わせて、詳しくはまた近づきましたらご案内申し上げたいと思いますので、よろしく願いした

いと思います。

今日提案させていただきました報告、協議事項、全て終わりました。この際でございますが、皆様方から何か話題提供等ありましたらお話いただきたいと思います。何かございますか。

●戸田委員

市長の公約で70歳以上・身体障害者の無料乗車券がございまして、市長の任期はあと1年半であります。そういった中で「これが継続されるのか、されないのか」といったものをこの会議の中で質問を出せるのでしょうか。

6月19日まで高速道路が一律安くなっていましたが、20日からまた元に戻るといった中で、今、市長が変わったとき、69歳の人70歳になったときに、それが実現するのか、しないのか。

そういったことを、本来は、やはり以前からその時代時代に合ったことをきちんと決めていかないとならず、子ども手当にしてもそうですが、今年から高校に行った子どもたちは1年半くらいしかもらえなかった。

やはり、その時代の波に乗って生活するのであれば、こういった地方のバス路線であっても、きちんとしたものを決めていかないと矛盾されるような感じがするのです。

この会議の中で、「市長の提言公約まで踏み込めるのか、踏み込めないのか」という問題でもありますが、できれば、「今、この厳しい財源の中であれば、早めの判断をもって市長の公約であってもそれは廃止するべきではないか」と議論していくべきではないかと思うのですが。

●塚本会長

「70歳以上のバス運賃無料化を廃止したらどうか」という提案でございますね。

私は市長ではないのですが、多分この場でその話が治うのか、治わないのかという、まず1つの議論があろうかと思えます。あくまでこれは市長の政治的な判断でございますから、多分任期中はその形でいくのだと思えますが、戸田委員が言われたように、今はこういう厳しい状況ですから、1日も早くそういうものを廃止して、受益者負担という考え方でやりなさいということでございますが、そういう提言がもしこの場でされたとしても、最終的には市長が判断いたしますので、それがこの場に馴染むのか、馴染まないかというのは、非常に難しいのではないのかとは思っています。

●戸田委員

市長にそういう反発をするのは悪いかもしれないですが、やはり…。

●塚本会長

もしよろしければ、そのことが直ぐ、廃止だとか、継続だとかということにはならないかもしれませんが、そういう意見があったということ、私の方から市長の方にお伝えさせていただきます。

●戸田委員

現在、町ごとによって、交付率が違います。60%だったり、50%だったり、これが100%全体的に普及されてしまったら、相当な金額になるのではないだろうか。今、おおよそ1億円くらいは負担しています。

●塚本会長

いずれにいたしましても、市長の政策的な判断でございますので、それは意見として賜らせていただきまして、また、そういう協議する場面があった場合にはそういうことも考えられるでしょうけれども、今、この公共交通会議の中では、恐縮ではございますが、そぐわないのではないかという思いがございます。

そういう意見を戸田委員からいただいたことを、市長の方にお伝えさせていただきま

すので、お願いしたいと思います。

その他何か意見がございますか。

・・・・・・・・全委員（なし）・・・・・・・・

閉会

●塚本会長

なければ、今日、報告させていただきました夕陽ヶ丘線が、いよいよ7月1日からスタートいたします。そして国の補助事業にも申請をしていこうということでご理解を賜りました。そういう意味ではこの公共交通会議後、決定いただきましたことに対して、事務局、そして我々も見守ってまいりたいと思いますので、どうか皆様方におかれましても、よろしくお願い申し上げたいと思います。

それでは以上をもちまして、平成23年度第2回北見市地域公共交通会議を終了いたします。

ありがとうございました。